

◎シリーズ 長岡京歴史散歩

139

長岡第三小学校区の遺跡3 今里遺跡出土の釣瓶つるべ

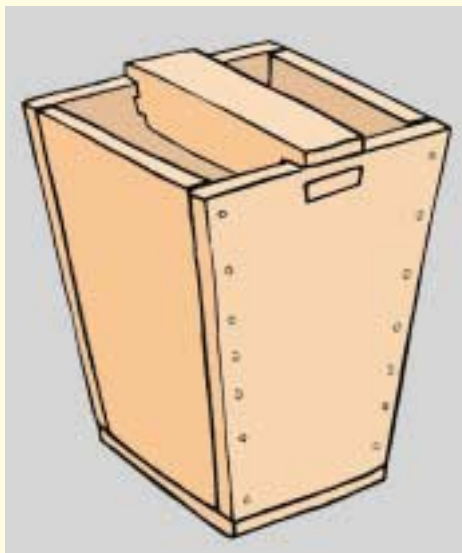
「朝顔につるべとられて貰もらい水」

江戸時代の女流俳人・加賀千代女の有名な詩を思い起こさせる遺物が、長岡第三小学校の南約200メートルで行った今里遺跡の発掘現場で見つかりました。

出土したのは「つるべ」。落語家の名前ではありません。「釣瓶」と書いて、深い井戸から水をくみ上げる道具の名前です。元々は、字のとおり焼き物の瓶びんに紐ひもをつけて使っていましたが、割れやすいためか木製のものに変わっていきます。

今回紹介する釣瓶は、江戸時代後期（17世紀後半）の井戸から見つかりました。

井戸は、地面をそのまま掘り下げた円形のもので、直径約2メートル、深さは5メートル近くもありました。中からは非常にバラエティーに富んだ多くの遺物が出土しています。釣瓶は井戸の一番下で見つかり、そのときは形を保っていました



▲出土した釣瓶の復原イラスト



▲手前の丸い穴が釣瓶の出土した井戸（西から）

が、部材を止めていた木釘が腐っていて、取り上げたときにバラバラになってしまいました。

釣瓶には色々な形がありますが、今回発見されたものは細長い四角形をした木製のものでした。大きさは、高さ20センチ、口の部分は一辺18センチ、底は一辺13センチで、口の所に把手とってをはめ込み、そこに縄を結びつけていた跡が残っていました。おそらく滑車を使って引き上げていたのでしょう。この釣瓶は外側が非常にすり減っていて、かなり長い間使われていたようです。

時代は、千代女のころよりも新しいものですが、ひよつとした夏の朝、ここ今里でも、貰もらい水をする風景が見られたのかもしれませんが。

（財長岡京市埋蔵文化財センター）